

## 吉田 泰士



大学名：龍谷大学

在籍期間：2年

冠名：情熱バンデミックトレーナー

### Q1. SG の経験を振り返って、ご自身のここが1番変わった！と感じる点

自分の当たり前の幅が広がった。自分のことしか考えていなかった当初と比べると、その成長のおかげで、他者に影響を与えられるくらい大きくなれたと思う。

### Q2. 入社してから今までで最も心に残っている、もしくは忘れられない瞬間

- ①自分の成長に対して悩んでいた時期を越えて、自分の考えの幅が広がったと感じられた瞬間の爽快感。壁を越えた瞬間。
- ②自分が教えていた子達から「有難う」をもらえた瞬間。

Q3. 実は〇〇でした！ぶっちゃけ話があれば聞かせてください。

入社当初は世間知らずで、佐藤さんのことをたける君、栗山さんのことを栗山くんと呼んでいました。(笑) (僕も入社当初は常識知らずの子供でした。今思い返すと怖いです。)

Q4. これからの SG に期待するもの

SG の社会認知をさらに高め、日本社会全体を活性化したい！

周りから「あの SG の出身の方ですか？」と言われるような組織にしたい！

SG という組織は今、変遷の時期であり、これからもっと大きな夢を掴んでいくと思う。そしてみんなにも自分自身の大きな夢を、この組織を通じて先へと運んでいって欲しい。その未来を考えるとわくわくする。その為にも自分も活躍していくし、皆にも頑張ってもらいたい！！

Q5. 1 番お世話になった方へのメッセージ

伊藤さん

この 2 年間本当にお世話になりました。

正直僕みたいな頭悪いやつを部下に持つと色々大変だったと思います。すみません。(笑)

覚えていないとは思いますが、AP になったタイミングの面談で「伊藤さんや社長をこの組織にいる間に超えたい」と言った時、伊藤さんに「それは無理や」と言われたのが悔しくて、それ以来、本気で伊藤さんを超えることが目標でした。今思えばどうなったら超えることになるん？とかツッコミどころ満載な発言でしたが

はい、、、無理でした。(笑)

伊藤さんはちょっと頭良すぎます。大人すぎます。あらゆる面で勝てなかったです。すみません。(笑)

ただ、目標にしていたからこそ、伊藤さんからたくさんものを学べたと思っています。日々の会話の中でも、そういう言い方したら伝わりやすいんやとか、そんな考え方しはるんやと

か、TRの打ち合わせも毎週毎週楽しみでしかたなかったです。今日は何を盗もうかと日々考えて過ごしていました。

ミスやポカをした日には鬼の形相で怖くてしかたなかったですが、そんな日は目を見ないようにしておりました。やらかしすぎて「お前にはもう言わへんで。分かってるやろ。」と言われた時は背筋が凍る思いでした。皆さん、伊藤さんにそう言われた時はもう終わりだと思ってください。後輩たちには注意してもらいたいです。

そんな紆余曲折もありまして、僕がここまで成長出来たのは伊藤さんのおかげでした。伊藤さんが僕に期待してくれていたからこそ、僕もその期待に応えようと頑張ることが出来ました。入社当初から変わらない思いは「こんな大人になりたいな」という思いです。これまでもそうだったようにこれからも僕は伊藤さんのような大人になれるように精進していきます。そしていつの日か、僕も下の子に「吉田さんみたいな大人になりたい」と思ってもらえるような大人になれるようにこれからも頑張っていきます。本当に2年間お世話になりました。有難うございました。

#### Q6. 後輩にこれだけは伝えておきたい！

「APを経験してほしい」

僕自身、APになってからの気づきが多かったこともあるのだけれど、やっぱり自分の事だけではなく他者の事を考えて過ごす経験は大切。下にいるうちから与えてもらう立場ということはあるけれど、APになると与えられる立場から与える立場になる。自分の成長は自分次第でいくらでも追うことが出来る。でも、他者の成長に自分が影響を及ぼすことはその百倍難しい。恋愛と同じ。自分がいくらその人を好きだと想っても、その人が振り向いてくれるとは限らない。自分がいくら部下の成長を願っていてもその人が自分の考えと同じように行動してくれるとは限らない。自分の成長に大事なものは意識と努力。でも他者に影響を与える為にはスキルがいる。しかもそのスキルには答えが無い。もっとこう出来たんじゃないかとかもっとこうしてあげたいとか、終わりが無い。責任も増す。でも、だからこそ自分自身も成長を実感する瞬間がある。僕にはあった。皆にもその瞬間を感じて欲しい。

#### Q7. なにか伝え忘れたことがあればなんでもどうぞ！

「社会は平等ではない」ということを覚えていてもらいたい。与えられることは当たり前ではないし、やりたいことをやれること・自分のことを気にかけてもらえることも当たり前ではな

い。自分はこういった価値を見出すことが出来、どういう価値を他者に与えることが出来るのかということでは評価はついてこない。僕の中の 100%・私なりには頑張った、ということでは評価されない。僕はこの組織に在籍しているうちに身をもって体感できた。勤務や事務所で活動を通して、自分が過ごしやすく、やりがいを感じられる環境は決して他人が用意してくれるものではないと学んだ。「応援を生み出す」ということの深さを学んだ。

自分の 100%なんて当たり前。他者にとっての 100%なんて当たり前。他者が求める 120、200、いやそれ以上をやって初めて「僕はこんなことが出来る」「私はこんな価値を出せる」「俺を見ろ」と発することが出来る。受け止めてもらえるものがある。自分自身、やりがいや成長を感じられる。今その時の限界なんて限界ではなかったりする。「社会は平等ではない」。皆にも応援を生み出し続けて欲しい。